

安倍9条改憲を許さない！

5・3おおさか総がかり集会
2019年5月3日(祝)13:30～

扇町公園～市民パレード3コース
(地下鉄御堂筋線「扇町駅」JR環状線「天満駅」)

泉北教育

NO.2136 2019.4.15.

発行 泉北教職員組合
〒594-0071 和泉市府中町6-12-2
0725-41-1953 Fax0725-44-6570
E-mail senboku@gf6.so-net.ne.jp

泉北・泉大津新歓フェスタ

4月7日、泉北・泉大津新歓フェスタを開催しました。毎年恒例のミニレク講座(鶴山台北小、宮下先生)では、みんな一緒にからだをウォーミングアップ。講演は元大阪市の小学校教諭で、現在和歌山大講師の土佐いく子先生でした。「どの子も見捨てへん」をテーマに、土佐先生の実践から参加者全員で学びを深めました。

「どの子も見捨てへん」本音の自分を出さなくしてはい

子どもは発達の主体か、客体か？

「黄金の三日間」という考え方があります。新学期、最初の三日間でしっかり「しめて」「おかな」と学級崩壊につながる、甘い顔を見せるな、と言われたことはないでしょうか。

この考え方に見える教育観、子ども観を問い直すと、「子どもは未熟で無知だから指導して教えなければならぬ」という考えが見えてきます。先生の考えや意図で教育をすすめる、それに子どもを当てはめたり、型に入れ込んでいく。そうすると、子どもは先生に「しめ」られ、「おかな」になります。子どもを教育の客体と考えると、「三日間でしつける」「しめる」という考え方になるのです。

安心してできるクラスに

新学期、子どもは「この先生はどんな教師なのか」と、鋭い目と感覚で見えています。



しかし、子どもは母親から産まれ出たときから学び、生きることを始めます。自分に必要な情報を獲得して、自ら変わっていきます。発達の主体は子どもにあり、それを助けるのが教育です。

この期間で「先生の言う通りにしなければコワイぞ、いい子にしよう」と思わせるのか、「本当の自分を出してこの先生なら安心や、ほつとしたわ」「明日も学校行きたい」と思わせるのか。子どもの発達にとって、本当の自分を出せるかどうかはとても重要なことではないでしょうか。

子どもを知る

旅の始まり

安心してできる学級づくりのために、教師が子どもを知り、知ったことを紹介し、子どもたち同士が知り合う関係へとなっていくことが大切です。

- ・名簿作成のときも、出会いの握手した手からも、子どもを知ることが出来ます。
- ・自己紹介カードは、決意ばかりでなく子どものことが知れる内容に。
- ・連絡帳にお話コーナーを作

と、保護者も子どもの様子を知ることが出来ます。

- ・子どもの詩や作文は、子どもを知ることが出来るし、紹介すれば子ども同士がつながります。

なと思いました。

新規採用なので、不安や緊張でいっぱいだったのですが、かなり解消されました。自分がどのような教育者として生きていくのかをもう一度考え直し、子ども・保護者・地域のために何が出来るのかを学び続けていきます。

【参加者の感想】

子どもの心に気づいて触れられる先生になりたいです。子どもを型にはめるのも客体として扱うのでもなく、子どもを主体にして授業づくり・学級づくりをしていきたいです。

印象に残ったのが「なめられる先生はいい先生」という言葉です。叱ることが出来るのかは置いておいて、子どもの行動の裏にある辛さやしんどさに共感できる教師になりたいと思いました。

昨年、クラスが大変な時期がありました。でも、子どもたちの声を聞くようになってから少しずつまとまる様になってきました。それこそ今回土佐先生が仰っていた「子どもと一緒につくる学級」なのか



熱心に聞き入る参加者たち

子どもと学校を追い詰める「新学習指導要領」は抜本的見直し。「チャレンジテスト」は廃止。